

明海大学不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第65回

【学生の目】

私は14年9月に行われた不動産学部主催の英国ケンブリッジ大学での海外留学に参加した。研修内容はヨーロッパにおける都市経済、環境政策および不動産経営で、日本と英国の不動産事情を対比しながら学ぶことができた。

英国のゼロカーボン住宅

深刻化する環境問題解決のために避けることができないテーマと考えるためだ。

英国は07年12月、建築分野における抜本的な低炭素化対策の第一歩として、16年までにすべての新築住宅をゼロカーボン化すると公表し、実現に向けた指針「持続可能住宅のための規定」を設定した。法律によるゼロカーボン住宅の義務化は先進国初の試みとされ、世界から注目を集

付け電力を生成する。

英国では無制限な市街地の拡大を防ぐために市街地を取り囲むようにグリーンベルトを設定する。グリーンベルトは都市の環境を保全するために宅地化が規制され、農業などを推進する。やむを得ない事情によりグリーンベルトを開発する際には、経済成長と環境保全の両立が強く求められ、ゼロカーボン住宅が意味を持つ。

日本の環境対策として環境省が提言する目標は、30年までに新築公共施設でZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）を実現し、50年までに既存建築物でもZEBを実現することである。しかし長期的プロジェクト故か、私たちには具体性が感じられず、解決策は見えない。この政策で本当に環境対策ができるか不安である。

先進国で初めて義務化

めている。

具体的な取り組みについてケンブリッジ市周辺を調べ、街の北西部で行われている環境対策プロジェクト（ケンブリッジ北西開発）を知った。そのプロジェクトは海外の最新技術も駆使し、ガスを使用して電力と熱を生成してCO₂の排出を削減する。再生可能エネルギーも利用し、ソーラーパネルを個々の住宅に取り

付ける。英国では無制限な市街地の拡大を防ぐために市街地を取り囲むようにグリーンベルトを設定する。グリーンベルトは都市の環境を保全するために宅地化が規制され、農業などを推進する。やむを得ない事情によりグリーンベルトを開発する際には、経済成長と環境保全の両立が強く求められ、ゼロカーボン住宅が意味を持つ。

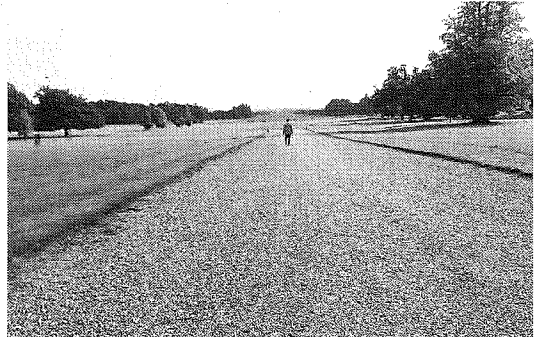
入を決断すべきだ。

（ビル）を実現し、50年までに既存建築物でもZEBを実現することである。しかし長期的プロジェクト故か、私たちには具体性が感じられず、解決策は見えない。この政策で本当に環境対策ができるか不安である。

【教員のコメント】
グリーンベルトは劣悪な都市の居住環境を経験した英国で生まれた。健康な都市環境の担保策だが、ケンブリッジのように人気があり、市街地の膨張圧力をもつ街では常に宅地化の危機にさらされる。ゼロカーボン建築が新しいステージを切り開くか注目である。



森田 愛理
不動産学部3年



市街地を囲むように配置されたグリーンベルト

不動産の不思議 不動産のふしぎ 不動産の不思議 不動産のふしぎ